表 1 処理区の濃厚飼料構成

肥育期*	試驗	1の試験	試験2の CS区				
	前期	中期	後期	前期	中期	後期	
濃厚飼料構成(%DM)					-	
配合飼料	76	67	80	75	73	73	
HMSC	20	18	10	20	22	22	
フスマ	-	13	9				
大豆粕	4	2	1	5	5	5	

^{*}肥育前期10-14ヵ月齢、中期15-23ヵ月齢、後期 24-28ヵ月齢

表 2 処理区の濃厚飼料成分含量および栄養価

肥育期	試驗	1の試	験区	試験2のCS区				
	前期	中期	後期	前期	中期	後期		
DM(%)	81.9	82.9	84.6	82.9	82.4	82.4		
CP(%DM)	15.7	15.2	15.4	15.9	15.7	15.7		
NDF(%DM)	21.4	22.8	25.8	20.6	20.3	20.3		
デンブン(%DM)	45.2	43.2	41.9	45,1	45.7	45.7		
TDN(%DM)	84.1	82.6	82.2	84.2	84.3	84.3		

^{*} HMSC の成分含量および栄養価 DM62.8%、CP8.2%、NDF8.6%、デンプン73.0%、TDN90.7%

表 4 乾物摂取量、TDN 自給率、枝肉成績

	-		1241.24.124			
	試點	£ 1	試験2			
	対照	試験	対照	cs		
乾物摄取量(kg)						
乾草	593	538	757	-		
麦稈	326	314	-	_		
CS	-	-	-	1,961		
配合飼料	4,372	3,029	4,055	2,031		
HMSC	-	657		605		
フスマ	-	332	-	-		
大豆粕	-	82	-	125		
TDN 自給率(%)	11.0	26.5	11.1	51.7		
出荷時体重(kg)	750	754	770	783		
枝肉成績						
枝肉重量(kg)	482	483	505	515		
胸最長筋面積(cm²)	68.2	63.7	69,1	64.9		
バラの厚さ(cm)	7.53	7.52	8.45	8.33		
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.59	2.33	2.39	2.47		
歩留基準	74.8	74.7	75.6	74.6		
B.M.S. No.	9.8	8.7	8.0	9.0		
オレイン酸含量(%)	49.3	49.0	51.3	51.8		

表3 肥育期の乾物摂取量、養分摂取量、日増体および第一胃内容液性状

試験	試験1						試験2						
肥育期* 処理区	肥育前期		肥育	肥育中期		肥育後期		肥育前期		肥育中期		肥育後期	
	対照	試験	対照	試験	対照	試験	対照	cs	対照	cs	対照	CS	
乾物摄取量(kg/日)													
乾草·麦稈	3.1	3.0	1.2	1.0	1.0	1.1	3.0		0.7		0.9		
CS								4.8		3.6		2.8	
濃厚飼料	5.3	5.3	8.6	8.3	8.5	7.5	5.6	3.4	8.9	6.0	8.4	6.4	
総摂取量	8.4	8.3	9.8	9.3	9.5	8.6	8.6	8.2	9.6	9.6	9.3	9.2	
TDN 摄取量(kg/日)	6.2	6.2	7.9	7.5	7.7	6.8	5.9	5.8	7.6	7.4	7.4	7.4	
CP 摄取量(kg/日)	1.0	1.0	1.4	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	1.4	1.0	1.4	1.0	
デンブン摂取量(kg/日)	2.1	2.4	3.4	3.6	3.4	3.1	2.2	2.5	3.6	3.6	3.4	3.8	
日增体(kg/日)	0.87	0.89	0.91	0.88	0.60	0.59	0.91	0.94	0.99	0.87	0.52	0.81	
第一胃内容液													
рН	6.50	6.59	6.45	6.37	6.56	6.81	6.74	6.62	6.26	6.55	6.41	6.72	
酢酸/プロピオン酸比	2.57	2.16	2.70	2.75	3.09	3.19	3.24	3.39	2.85	3.29	1.80 ^b	2.80	

^{*}肥育前期10-14ヵ月齢、中期15-23ヵ月齢、後期24-28ヵ月齢 *a, b:異文字間に有意差あり (P<0.05) 用語説明

- * 1 HMSC (ハイモイスチャーシェルドコーン): 完熟期のトウモロコシ子実を未乾燥で粉砕後、密封梱包し調製したもの。本試験では、安平町の農業法人で調製したサイレージを供試した。
- *2酢酸/プロピオン酸比:第一胃内発酵パターンを示す指標、3以上は酢酸優勢型発酵、2以下はプロピオン酸優勢型発酵

デンプン多給時にプロピオン酸優勢となりやすい。参照元:日本飼養標準肉用牛2008、P93

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。 道総研畜産試験場 肉牛研究部 肉牛グループ 糟谷広高 電話 0156-64-0610 FAX 0156-64-3212 E-mail animal-agri@hro.or.jp

^{*}対照区の濃厚飼料は各肥育期で配合飼料のみ

^{*}配合飼料の成分含量および栄養価 DM87.7%、CP15.6%、NDF24.3%、デンプン40.9%、 TDN82.0%